



2020年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年11月12日

上場会社名 株式会社TATERU 上場取引所 東
 コード番号 1435 URL <https://corp.tateru.co/>
 代表者 (役職名)代表取締役CEO (氏名)古木 大咲
 問合せ先責任者 (役職名)経営管理本部長 (氏名)安井 慎二 (TEL) 03(6447)0651
 四半期報告書提出予定日 2020年11月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年12月期第3四半期の連結業績(2020年1月1日~2020年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年12月期第3四半期	5,227	△70.3	△531	—	△564	—	△900	—
2019年12月期第3四半期	17,607	△65.3	△7,267	—	△7,697	—	△10,463	—

(注) 包括利益 2020年12月期第3四半期 △902百万円(—%) 2019年12月期第3四半期△10,521百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2020年12月期第3四半期	円 銭 △9.99	円 銭 —
2019年12月期第3四半期	△117.87	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2020年12月期第3四半期	百万円 9,492	百万円 7,343	% 77.4
2019年12月期	12,290	8,227	66.9

(参考) 自己資本 2020年12月期第3四半期 7,343百万円 2019年12月期 8,226百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2019年12月期	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 0.00
2020年12月期	—	0.00	—	—	—
2020年12月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年12月期の連結業績予想(2020年1月1日~2020年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
通期	5,962	△68.3	△971	—	△1,111	—	△1,256	—	△13.94	

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 ー社 (社名) 、除外 ー社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2020年12月期3Q	91,127,000株	2019年12月期	90,167,000株
② 期末自己株式数	2020年12月期3Q	— 株	2019年12月期	— 株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2020年12月期3Q	90,170,504株	2019年12月期3Q	88,772,128株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9
3. その他	11
継続企業の前提に関する重要事象等	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済政策や日本銀行の継続的な金融政策を背景に、雇用・所得環境の改善、また、個人消費の改善及び設備投資の増加継続により、引き続き緩やかな回復基調で推移していましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う世界経済への影響など、先行きについては厳しい状況が続くと見込まれ、金融資本市場の変動等、依然として不透明な状況が続いております。

不動産業界における賃貸住宅市場においては、景気の動向及び新型コロナウイルス感染症の影響を受けにくく、入居率や賃貸水準ともに堅調に推移しております。また、テクノロジーを活用した業務効率化と透明性の高い不動産事業への変化が求められている中、AI、IoT等の先端技術を活用したDX（デジタルトランスフォーメーション）による不動産領域の様々なサービスの実用化が進んでおり、各種IoT機器を活用することにより多様化する生活スタイルに相応しいスマートホームの実現等、利便性の高いサービスの需要はさらに拡大すると見込まれております。

このような状況の下、当社グループは、2020年2月13日付の「中期経営計画に関するお知らせ」で公表した通り、更なる深化と変革を加速させるべく2020年度から2022年度までの3か年の中期経営計画「NEXT TATERU VISION」を掲げ、事業の確立・拡大に取り組むべく、今後の持続的な成長に向けた構造改革を進めてまいりました。ストック収入の強化に向けた次なるビジネスモデルへの拡大を図るべく、PMプラットフォーム事業をKANRY事業として新たにスタートさせるとともに、当社グループにおいて展開していた保証サービス事業を独立させ、新会社「株式会社サナス」を設立いたしました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間における業績は、売上高52億27百万円（前年同期比70.3%減）、営業損失5億31百万円（前年同期は営業損失72億67百万円）、経常損失5億64百万円（前年同期は経常損失76億97百万円）、投資有価証券評価損2億82百万円を特別損失に計上したこと等により、親会社株主に帰属する四半期純損失9億0百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失104億63百万円）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントとして記載する事業セグメント及び事業セグメントの名称を一部変更しており、当第3四半期連結累計期間の比較・分析は、変更後の区分に基づいております。

① KANRY事業

KANRY事業につきましては、AI・IoTなどのコアテクノロジーを活用した賃貸住宅管理戸数の増加やIoT導入シェアの継続的な拡大を目指し、「Residence kit」の機能改修・強化や、外部販売を推進いたしました。2020年7月13日には不動産経営を自動化させる新サービスとして「Residence kit for Owner」をリリースいたしました。また、自社開発をした賃貸管理RPAシステム「Residence kit for PM」の導入推進によりKANRY事業のコスト構造を見直し、収益力の向上を図りました。一方、保証サービス事業においては、自社保証シェアの拡大に注力いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は22億49百万円（前年同期比4.8%増）、営業利益は7億23百万円（前年同期比174.4%増）となりました。このうち、AI・IoT関連の売上高は1億92百万円、営業利益は61百万円となりました。

② TATERU事業

TATERU事業におきましては、新型コロナウイルス感染症の拡大による宿泊需要の急激な落ち込みの影響を受け、新規のスマートホテルの開発をストップするとともに、宿泊需要のさらなる悪化に備えて債務保証損失引当金繰入額3億95百万円を計上いたしました。一方、収益不動産開発においては、好立地物件を厳選し用地仕入れを再開しており、富裕層向けのIoTで差別化された収益不動産の販売や、新たな商品ラインアップの拡充を行うべく企画開発に注力いたしました。また、テクノロジー×不動産コンサルティングによる老朽化施設のコンバージョンプロジェクト等においては、山中湖村に2020年9月19日にオープンいたしましたスポーツとファッションの複合施設「AddElm Chillout Village(チルビル)」の総合デザインを手掛けました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は29億78百万円（前年同期比80.7%減）、営業損失は4億7百万円（前年同期は54億26百万円の営業損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べて27億98百万円減少し、94億92百万円となりました。これは主に、販売用不動産が20億18百万円、現金及び預金が3億53百万円減少したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べて19億13百万円減少し、21億49百万円となりました。これは主に、債務保証損失引当金が3億71百万円増加した一方で、長期借入金が22億50百万円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べて8億84百万円減少し、73億43百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失9億0百万円を計上したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想につきましては、2020年2月13日に発表しました連結業績予想から修正は行っておりません。

なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による業績への影響につきましては、今後の経営環境及び業績動向等を注視し、業績予想の修正が必要と判断した場合には適時公表いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,370,649	6,017,610
売掛金	514,535	507,702
商品及び製品	38,820	54,434
販売用不動産	3,730,949	1,712,518
仕掛販売用不動産	140,612	101,111
貯蔵品	4,720	5,230
その他	396,265	301,197
貸倒引当金	△35,681	△128,348
流動資産合計	11,160,871	8,571,456
固定資産		
有形固定資産	39,940	55,400
無形固定資産		
その他	—	38,208
無形固定資産合計	—	38,208
投資その他の資産		
投資有価証券	721,757	422,172
その他	368,230	405,504
投資その他の資産合計	1,089,988	827,676
固定資産合計	1,129,928	921,286
資産合計	12,290,799	9,492,743

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	158,370	58,684
1年内返済予定の長期借入金	400,000	300,000
未払法人税等	42,110	49,528
賞与引当金	17,433	57,795
満室保証引当金	4,189	—
債務保証損失引当金	304,136	675,477
資産除去債務	—	59,575
その他	821,853	947,112
流動負債合計	1,748,094	2,148,172
固定負債		
長期借入金	2,250,000	—
資産除去債務	64,861	888
固定負債合計	2,314,861	888
負債合計	4,062,955	2,149,060
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,286,422	7,296,022
資本剰余金	7,192,610	7,202,210
利益剰余金	△6,249,263	△7,149,416
株主資本合計	8,229,769	7,348,816
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△4,227	△4,557
為替換算調整勘定	1,282	△576
その他の包括利益累計額合計	△2,945	△5,134
新株予約権	1,020	—
純資産合計	8,227,844	7,343,682
負債純資産合計	12,290,799	9,492,743

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2019年1月1日 至2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2020年1月1日 至2020年9月30日)
売上高	17,607,953	5,227,627
売上原価	20,106,333	4,009,188
売上総利益又は売上総損失(△)	△2,498,379	1,218,439
販売費及び一般管理費	4,768,994	1,749,882
営業損失(△)	△7,267,373	△531,442
営業外収益		
受取利息	1,183	644
受取配当金	751	500
投資事業組合運用益	9,868	11,719
受取保険料	10,000	—
その他	4,727	12,496
営業外収益合計	26,530	25,360
営業外費用		
支払利息	23,580	34,970
投資事業組合運用損	1,059	1,512
支払手数料	163,973	18,060
持分法による投資損失	219,915	—
その他	47,798	4,095
営業外費用合計	456,328	58,638
経常損失(△)	△7,697,172	△564,721
特別利益		
固定資産売却益	—	4,938
新株予約権戻入益	510	1,020
関係会社株式売却益	60,511	—
特別利益合計	61,021	5,958
特別損失		
減損損失	886,176	35,851
投資有価証券評価損	65,814	282,792
特別退職金	281,000	—
のれん償却額	1,540,991	—
関係会社整理損	—	242
特別損失合計	2,773,983	318,886
税金等調整前四半期純損失(△)	△10,410,133	△877,649
法人税等	104,463	22,746
四半期純損失(△)	△10,514,597	△900,395
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△50,898	—
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△10,463,698	△900,395

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
四半期純損失(△)	△10,514,597	△900,395
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△6,916	△330
為替換算調整勘定	△385	△1,858
その他の包括利益合計	△7,302	△2,188
四半期包括利益	△10,521,899	△902,583
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△10,471,000	△902,583
非支配株主に係る四半期包括利益	△50,898	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う会計上の見積りについて)

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う渡航制限、不要不急の外出やイベントの自粛要請等により、当社グループにおいても、宿泊需要減少の影響を受けております。新型コロナウイルス感染症拡大による影響の収束時期は依然として不透明であります。2021年6月までは当該影響が継続していくとの仮定のもと、債務保証損失引当金及び投資有価証券の評価の会計上の見積りを行っております。

なお、この仮定は不確実性が高く、収束が遅延し、第二波等の発生により事態がさらに長期化した場合には、将来において損失が発生する可能性があります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注) 3
	KANRY事業	TATERU事業	計				
売上高							
外部顧客への 売上高	2,145,501	15,460,757	17,606,259	1,694	17,607,953	—	17,607,953
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	1,002	4,287	5,290	66,956	72,246	△72,246	—
計	2,146,504	15,465,045	17,611,549	68,650	17,680,200	△72,246	17,607,953
セグメント利益 又は損失(△)	263,559	△5,426,866	△5,163,306	△142,443	△5,305,750	△1,961,623	△7,267,373

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「KANRY事業」、「TATERU事業」、「その他」、「全社」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当第3四半期連結累計期間における当該減損損失の計上額は下表のとおりであります。

KANRY事業	210,079千円
TATERU事業	289,663千円
その他	75,016千円
全社	311,416千円
合計	886,176千円

(のれんの金額の重要な変動)

「TATERU事業」セグメントにおいて、連結子会社である株式会社インベストオンライン株式に係るのれんの償却を行い、のれんが減少しております。なお、当該事象によるのれんの減少額は、当第3四半期連結累計期間においては1,540,991千円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注) 3
	KANRY事業	TATERU事業	計				
売上高							
外部顧客への 売上高	2,249,018	2,978,584	5,227,603	24	5,227,627	—	5,227,627
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	531	45	576	1,007	1,584	△1,584	—
計	2,249,550	2,978,629	5,228,180	1,031	5,229,211	△1,584	5,227,627
セグメント利益 又は損失(△)	723,297	△407,400	315,897	△21,565	294,332	△825,774	△531,442

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する情報

当社グループは、従来「TATERU Apartment事業」「スマートホテル事業」「Robot Home事業」の3区分を報告セグメントとしておりましたが、第1四半期連結会計期間より、ストック収入の「KANRY事業」とフロー収入の「TATERU事業」の2区分を報告セグメントとしております。

併せて全社費用の配分方法についても見直し、セグメント調整額に含めることといたしました。

これは、当社グループの事業展開、経営資源の配分の決定及び業績評価の方法を実態に即して見直したことによる変更であります。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度において売上総損失、営業損失、経常損失及び親会社株主に帰属する当期純損失を計上し、当第3四半期連結累計期間においては売上総利益を計上しているものの、依然として営業損失、経常損失及び親会社株主に帰属する四半期純損失を計上しております。

当該状況により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しておりますが、当第3四半期連結会計期間末の資金残高の状況及び今後の資金繰りを検討した結果、当面の事業活動の継続性に懸念はなく、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。

なお、ストック収入であるKANRY事業のさらなる拡大と、フロー収入であるTATERU事業の収益改善に取り組むことで、継続企業として安定的な収益確保を図ってまいります。